紀伊民報
2011年(平成23年)2月3日 木曜日 第20505号 (12)

日本一のクラゲ天国 田「ノ」湾

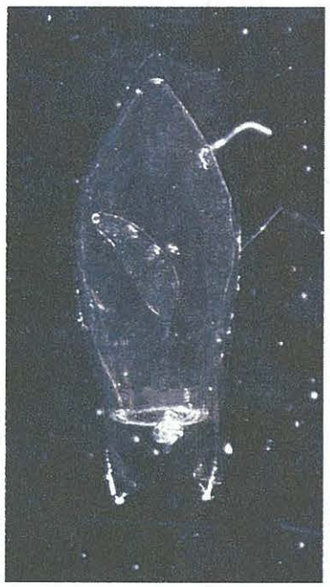
# ヨジレクラゲ

久保田 信

8

普段見慣れないクラゲの一つに外洋性のヨジレクラゲがいる。管クラゲ類に属しており、体のつくりが複雑で一風変わっている。

ヨジレクラゲの大部分を占めるのが、ロケット型の泳鐘（えいしょう）と呼ばれる部分である。ここは堅い寒天質でできており、内側の空洞部から海水を噴射してすいすいと泳ぐ。長さは数㍉ほどで五角錐（ごかくすい）をしており、他の見慣れたクラゲ類の傘の外形とはずいぶん異なっている。先がとがっていて、水切り効率もよく、泳ぎ達者なクラゲである。



変わった形のヨジレクラゲ

画像に示した泳鐘の中を前後に走っているのが体嚢（たいのう）という部分である。体嚢の先端は曲がっており、これが類似した仲間との区別点である。ヨジレという名前もこの形状から付けられた。体嚢の最先端には油の粒があり、浮遊のバランスのために使っている。

体嚢の下に白い塊として見えているのが摂食用の部分で、生きがよいと糸のようなものが長く伸びる。ここには餌を捕まえるポリプ状の部分が連なる。ヨジレクラゲは海の沖合にすんでいるので飼育がとても難しい。プランクトンネットで採取しても長生きできず、死ぬと透き通るような透明の体が真っ白になる。

ヨジレクラゲのような管クラゲは、複数の形の違う個虫が集まって一つの群体を構成している。それぞれの個虫は1個の受精卵から成長したものだが、摂食用、生殖用、遊泳用、攻撃用、防御用など特化した役割を担っている。いわば工場の製造ラインのように完全分業化している。

このような個虫を無数に連ねた別種には、世界最長の動物として知られるマヨイアイオイクラゲがいる。全長40㍍を超えることもあるという。

（京都大学准教授）